

なはSDGs推進事業 地域円卓会議



なはセン通信

Vol.103

2025年
3月号

目次

SDGs推進事業地域円卓会議	1
イベント・講座	2
なは市民活動支援事業	3
なはセンについて	4

問い合わせ

なは市民活動支援センター
098-861-5024
C-KATU005@city.naha.lg.jp

社会を変えるお金の使い方を考える

那覇市版SIB（ソーシャル・インパクト・ボンド）は、

地域内でSDGs達成につながる協働活動を創出し、持続可能な地域社会の実現を目指す、新しい資金循環の仕組みです。市民活動団体が、市民や企業からの出資を募って事業を行い、成果目標が達成された時に、本市が出資者に支払いを行うといった「成果連動型助成」の取り組みとなっており、市民活動団体は、出資者という「応援団」を得ることができ、出資者は出資金を出すことで主体的に地域課題に向き合い、課題解決の当事者となります。

今年度は、次年度SIB実施に向けての実証事業として、2団体に助成を行い、円卓会議の開催や専門家等とともに、SIB実装に向けた事業スキーム

の構築を図っています。

去る2月8日（土）には、沖縄国際大学にて地域円卓会議を開催し、那覇市版SIBの紹介と、今年度採択された2団体、一般社団法人琉球フイルハーモニックと労働者協同組合ワーカーズコープセンター事業団沖縄事業所の事業報告を元に、SIBに関心を示す多くの方々から有益なアイデアをいただきました。

円卓会議の着席者である市民側のなは市民協議会代表の饒波正博さんからは、今回の円卓会議で10年前の「コストカット」というイメージが変わると同時に、市民参画のSIBへの期待と責任への思いが寄せられました。また、沖縄振興開発金融公庫の井上慧さんからは、SIBも公民

連携に位置づけられ、融資までいくつかの支援の「橋」が必要になると導入していく上でのサポートについて触れ、最後に、古謝玄太副市長から、SIBは「成果着目型」であり、より効果的な事業にするためのものとまとめられました。

サブセッションでは、「関係人口が増えていくのはいい」「分かりやすいネーミングがほしい」など多くのアイデアが出されました。

今回の円卓会議で出た多くの意見を踏まえ令和7年度には市民より出資を募るSIBを実装できるよう励んでいきます。



《第2弾》COG'2024までの道のり！

チャレンジオーブンガバナンス2024出場決定!!

東京大学（本郷キャンパス）にて、3月16日に行われるCOGの最終公開審査に那覇市から2団体が選出されました。
おめでとーございます！

◆ファイナリスト ミネコヤ（令和5年度なは市民協働大学院首里チーム）

◆セミファイナリスト ななほしてんとうむし会（令和5年度なは市民協働大学院中心市街地チーム）

参加・視聴の
申込はこちらから



**なは市民協働大学院
修了生のその後…**

令和6年度なは市民協働大学院修了生チームの『古島あしびなー』は、真和志地域で「子どもを真ん中に多世代が主体的に関わるプレーパークをつくる！」をテーマに活動をしており、去る1月25日（土）松島小学校区内の「大神公園」にて、プレイイベントとして第1回目のプレーパークが開催されました。水風船、縄遊び、木工、遊具、釘刺し遊び等普

段なかなかできない遊びに、参加者の楽しむ姿が見られ、世代を超えた参加者が集い多年代交流の場となっていました。子どもたちが自由な発想で自らの手で新しい遊びを創り出す姿も見られ、まさに自治の精神が息づいた空間が生まれていたように思います。また、公園内ではポストイットを活用して、「この公園で何をしたいか」アンケート調査も行われました。子どもたちの回答には「テントを建てて映画鑑賞」、「お菓子づくり」、「自然を使ったかくれんぼ」など、どれも子どもたちの想像力と夢が詰まったものでした。

今回、プレイイベントとしてのプレーパークを通じて、多くの子どもたちが《地域》の中で遊ぶ楽しさを再発見していく姿を見ることができ、その姿に、大人たちも元気をもらい、改めて地域全体で子どもたちの成長を支えることの大切さを改めて実感したひとときでした。



イベント・講座

**なはみまもりフォーラム2025
「人を知る冒険に出よう！」**

去る、1月28日（火）県立博物館・美術館にて「なはみまもりフォーラム2025人を知る冒険に出よう！」が開催されました。「地域住民一人一人が気にかけてあう地域づくりをどのように構築していくか」をみんなで考え、【人×場所×仕掛け】をキーワードに、安心して暮らせる地域づくりを推進する契機としたいという目的のもと、地域、行政、大学教授など様々な立場からの参加がありました。

第1部では、なはみまもりフォーラムの振り返りや地域の課題に対するアプローチとして、課題提起から始めるのではなく、地域住民の「楽しそう」からアプローチをし、課題決めを行うことが定着した活動に繋がるという説明が印象的でした。加えて、那覇市民意識調査分析では、市民が考える地域の定義は自治会や行政区、小学校区、市全体等、広い認識を持っているのに対して、実際に助け合える範囲としては隣近所と認識しており、20代～80代の全ての世代が助け合う近所づきあいを潜在的に希望していることが明らかになりました。最後に、人と人を繋ぐためには、人・場所・仕掛けが必要であると伝えられました。

第2部では、琉球大学准教授 田中将太氏を迎え、実際に那覇市内の地域で活躍している団体の皆様が各地区のコミュニティソーシャルワーカー（以下、CS

W）と登壇しました。団体の中には、なは市民活動支援事業助成金の交付を受けている「山城塾（小緑地域）」ワクワクゆんたくカフェ、その他「コープおきなわ（首里地区）」、「泊みまもり隊（本庁地区）」、「繁多川市宮住宅自治会（真和志地区）」の4団体が登壇しました。各地区で活躍している団体はどれも、地域課題に対して、各々ができることを実践していることが印象的でした。

発表後は、那覇市社会福祉協議会のCSWから、「地域の支え合いには人と人を結びつけるもの（場所・仕掛け）が重要」であり、誰一人取り残されない地域へ向かう仕掛けのきつかけとして「楽しいこと」「できること」「やってみたいこと」から地域づくりに参加していきましようという言葉で締めくくられました。



登壇中の「山城塾」代表 山城勝秀氏

第3回ボランティア講座 社会とボランティア

1月22日(水)に「ボランティア基礎講座3 社会とボランティア」様々なボランティア活動を知ろう」をなは市民活動支援センターで開催しました。この講座は、ボランティアを始めようと考えている方や興味を持っている市民が、ボランティアの活動事例を学ぶことでボランティア活動が地域づくりにつながっていることを知り、ボランティア活動を行うための基本知識や心構えを学ぶことを目的とした講座です。

講座は2部形式で進められ、初めに那覇市社会福祉協議会の「那覇市ボランティア・市民活動センター」の活動として、専門的な対応が必要な問題を抱えた個人に対して行われる「個別支援」や、地域福祉活動を促進する「地域支援」が行われていることが紹介されました。個別の課題を、見守り隊・サロンなどの「地域支援」へと繋げ、一体的に支援が行われています。また、活動事例の紹介では、障がい者の観光の付き添いや傾聴、対戦ゲームのお相手など、様々なボランティア活動が紹介されました。

後半では、能登半島地震における災害ボランティアセンター運営支援被災地市町村社協支援として、講師の前川氏が石川県珠洲市社協へ派遣された際の活動が紹介されました。

人口の50%以上が65歳以上である珠洲市は介護保険事業が盛んですが、現在は社協職員も被災したため正職員が3名となっており、他府県から派遣された職員は地域の高齢者の方言が聞き取れなかったり、地形が大きく変わり訪問もままならないなど、活動が困難となっている現状が紹介されました。また、講義の中で『災害ゴミ』は被災者にとっては『ゴミ』ではないので、『荷物』という表現を用いた」というお話があり、厳しい状況の中でも思いやりをもって活動する社協職員の姿勢がボランティア活動を行う心構えとして「とても心に残った」との感想が受講生から寄せられました。

受講生間の意見交換では活動してみたいボランティアについて活発に意見交換がなされ、これからの活動に胸膨らむ講座となりました。

《講師》那覇市社会福祉協議会
《職員》前川三奈氏、神田貞幸氏



ボランティアマッチングコーナー

那覇市人材データバンクとは？ ～那覇市のボランティアマッチング～

「ボランティアをしたい個人・団体」と「ボランティアを求める団体」とのマッチングを行い地域社会の課題解決につなげます！



SDGsパスポートについて

那覇市では沖縄県ユネスコ協会のSDGsパスポートの取り組みに賛同し、SDGsパスポートを発行しています



ボランティア登録をする！

SDGsパスポートをご希望の方は那覇市人材データバンクへご登録をお願いします

ユネスコSDGsパスポート活用事例報告会

2/15(土)に沖縄県ユネスコ協会主催により、さらなる地域活動の活性化に繋げることを目的の場とした「ユネスコSDGsパスポート活用事例報告会」を沖縄県県立博物館・美術館で開催されました。

那覇市の活動団体である「たのしむぞ06（おろく）」がひよどり児童公園内にあるベンチのペンキ塗りからはじめた活動を起点に、次々に地域の関係機関を巻き込みながら実施した活動事例をはじめ、その他県内でSDGsパスポートを活用した活動に取り組んでいる各団体の事例の報告がありました。1つの小さなボランティア活動が人と人をつなぎ、地域や社会の課題解決へつながっていることが分かる内容でした。

那覇市では、那覇市人材データバンク事業に登録したボランティア人材のうち、希望する方にSDGsパスポートを発行しています。ご登録をお願いいたします！



たのしむぞ06（おろく）、小禄南小学校区まち協、鏡原中学校合同基調講演



なは市民活動支援センターについて



◆施設利用料金 ※1時間当たりの料金 ※オンライン機材貸出可

	定員	面積	料金	冷房
会議室①	84人	約200㎡	1,300円	400円
会議室②③	80人	約200㎡	1300円	400円
会議室③	30人	約100㎡	650円	200円
会議室④	8人	約40㎡	200円	100円
会議室⑤	12人	約30㎡	200円	100円
会議室⑥	12人	約30㎡	200円	100円
会議室⑦	5人	約30㎡	200円	100円
会議室⑧	20人	約45㎡	250円	100円
研修室①	16人	約30㎡	200円	100円
研修室②	16人	約30㎡	200円	100円

◆駐車場 について・・・

なは市民協働プラザ地下駐車場（駐車台数：39台）
メカルパーキング（駐車台数：70台）
※なは市民活動支援センターをご利用の場合、駐車料金は減免の対象となります（例：2時間100円、3時間200円）

◆開館時間、休館日

月・火・木・金	9：00-21：00
水・土・日	9：00-17：00
休館日	年末年始・慰霊の日

◆めかる学習ステーション

開館時間中、なは市民活動支援センター 2 階を学生・社会人向けの自習スペースとして開放しています！
それぞれの学習ペースに合わせてご活用ください。

貸し出し中！

なはセンお薦め図書

子どもまちづくり型録

(編著) 木下 勇、寺岡 光成

(共催) 松本 暢子、三輪 津江、吉永 真理

「都市とは、その通りを歩いているひとりの少年が、
彼がいつの日かなりたいたいと思うものを感じとれる場所
でなくてはならない——ルイス・カーン」
20世紀を代表する都市計画家の一人であるルイス・カーンの言葉から始まり、子どもを主体としたまちづくりの108パターン（事例）について紹介されています。「子どもが幸せであるかどうか、社会が健全でうまくいっているかの証」は、国連人間居住会議スローガンとして扱われ、子どもがどのように地域に参画していくか、そして、その参画が自主的に行われるかが、健全なまちであることの理由の一つに提示されました。この図書を機に、あなたの地域でも新たなパターンが誕生するかも。



講座・イベント

令和6年度なは市民活動支援事業

最終成果報告会



3/15(土) 9：30～13：00
なは市民活動支援センター 会議室1

令和6年度なは市民活動支援事業の受託団体14団体による成果報告発表会を開催します！

次年度、本助成金の活用を検討している団体及びどういった市民活動がされているのか気になる方は、ぜひご参加ください。

よろず相談

利用可能日時

月・水・土 10：00～17：00
金 13：00～20：00

※相談時間目安 1時間～90分程度
※事前申し込み必須



申し込みフォーム

なは市民活動支援センターでは、団体設立や市民活動に関する相談窓口を設けています。